

2012/5/24  
第 37 号  
(24 年 5 月号)

# し の の め



長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail [kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp](mailto:kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp)

## 参事兼次長挨拶

長野県総合教育センター参事兼次長

青木 正幸

今年 4 月に着任しました参事兼次長の青木正幸です。

学校を取り巻く今日的情況には、大変厳しいものがあります。理由はとまれ、時代の変化に伴い、社会の中でそれまでの比較的安定した学校の位置が揺らぎ始めています。言い換えれば、教育活動の根幹である「信頼」が揺らぎ始めていると受け止めることもできるのではないかと思います。一方、学校の改革をめぐる様々な議論や取り組みが展開されているところですが、わが子を託す学校への保護者からの「信頼」が揺らぎ始めたならば、学校の活性化あるいは学校改革は実現できません。学校教育のすべては、「信頼される学校づくり」に始まり「信頼される学校づくり」に帰着します。保護者が学校へ信頼を寄せるのは、組織としての学校というよりは、わが子のクラス担任をしている、あるいは授業を受け持つ先生方への信頼を拠りどころにしている場合が多いと思います。そういう意味で、先生方一人一人の資質を向上させ維持していくことなくして学校への信頼は生まれません。保護者の皆さんの多くは、先生方が多忙なのは承知の上で、なおかつ、現在の自分に飽き足らずに絶えず自分を磨きあげようとして努力を惜しまない先生を望んでおります。

当センターは本県教職員の研修の中核機関として、時代を拓く子どもたちの育成のために、学校現場で日々ご尽力いただいている先生方を様々な面から支援してまいりますので、研修講座等の積極的なご活用をお願いいたします。



## センターからのお知らせ

### ☆サマーエコスタイルキャンペーン実施中です。

5 月 1 日(火)から 10 月 31 日(水)まで夏季軽装期間となっています。

研修講座等にご来庁される皆さんも、主旨をご理解のうえ軽装でお出かけください。

### ☆会議室等の貸し出しを始めました。

詳しくはセンターホームページ(「センター利用について」>「会議室等の利用」)をご覧ください。

### ☆希望研修の決定通知を発送しました。

5 月 21 日(月)に「学校別受講決定者通知書」を各学校に送付しました。5 月 22 日(火)よりセンターホームページにも掲載されています。申込者個人には通知されませんのでご注意ください。

## —— 研修講座を振り返って ——

4～5月に実施した研修講座から2講座を振り返ります

### ◇高等学校初任者研修「教職基礎研修Ⅱ」

4月24日(火)に高等学校初任者研修「教職基礎研修Ⅱ」が実施されました。開講式では当センター大井基成教職教育部長が挨拶の中で、県歌「信濃の国」の由来を説明した後、受講者で1番と2番を歌いました。午前中の講義では、当センター青木正幸参事が「初任者に期待すること」と題して、生徒と接する際に「(生徒を)見下さない、見捨てない、見落とさない、見逃さない」ことの必要性を話されました。続いて、教学指導課の堀金達郎高校教育指導係長が、長野県における学力向上の現状と取組みの話をして、「わかることで学ぶ喜びを引き出す授業実践」や「単に知識を学ぶだけでなく、その学んだことを応用する力の必要性」を話されました。

午後は、教学指導課の小林敏一主任指導主事から、高校におけるキャリア教育の現状と課題について話をされ、「キャリア教育は生徒の社会的、職業的自立に資するため、生徒ひとりひとりの将来を見据えた学力の向上やコミュニケーション能力の向上の取り組みが必要である。」と話されました。続いて、教学指導課心の支援室大倉宏夫指導主事から「人権教育は、自分と他人の人権を守るための実践力や行動力を育成することで、教育活動の根幹をなすものである。そして、日ごろの教師の立ち居振る舞いは「隠れたカリキュラム」として生徒に大きな影響を与える。」ということを話されました。

～初任者の感想から～

- 生徒が分る喜びを実感し、学ぶ意欲が育てられるような授業をしたいと思いました。
- キャリア教育が単なる進路指導ではなく、コミュニケーション能力を育成するうえで、教科指導や生徒指導等が重要であることがわかりました。
- 生徒の人権意識は教員の姿勢に影響することが分り、自分の人権感覚の甘さを痛感したので、これからは人権意識を高く持って教育活動をしたいと思いました。



大倉指導主事の演習

### ◇高等学校初任者研修「教科指導基礎研修Ⅰ」

5月8日(火)に高等学校初任者研修「教科指導基礎研修Ⅰ」が実施されました。開講式では、普段から生徒とのコミュニケーションをとることの大切さについて大井基成教職教育部長からあり、午前中は2人のベテランの教員から実践発表が行われました。教室では暗黙のうちにルールが了解されている状態の「規律ある雰囲気」を作ることが大切であること、「なぜ勉強をしなければいけないのか」という子ども達の疑問に指導者としての答えをもつこと、授業内容をより効果的に伝えるために授業の「脚本」の練り上げをしっかりと行うことなどを話されました。また、教師間で情報を共有すること、指名することやノートを見ることで生徒の予習状況や理解度を把握できること、テスト分析や授業アンケートによって自己評価することなど、指導力向上のための多くの手法を紹介していただきました。

午後は、9～14名のグループに分かれて研究協議をおこないました。各自が実践した授業の指導案を発表し、その中で工夫や意識していること、困難点をあげてお互い共有し、教科指導力を高めました。

～初任者の感想から～

#### ◆実践発表◆

- 勉強する必要性を、自分の経験を活かして語れるようにしたい。
- 教科指導の根本にあるのは、生徒をはじめとする「人」を大切に思う気持ちなのだ気づいた。
- 実践発表を聞くまで、生徒から評価されているという意識は私の中で低かった。
- 教えることを通して、生徒が社会に出たときに、大切にされる人間、人から感謝される人間になるように、一緒に成長していきたい。

#### ◆研究協議◆

- 学校の実態に応じた課題を見つけることができた。
- グループ分けの方法や、黒板の使用法、小テストの目的と導入方法、声掛け方法や指示など普通の授業で重要となることを確認するとともに、日頃の授業における工夫や注意点を共有することができ、参考となった。
- 生徒をどのように授業に参加させていくか、生徒の考え方を引き出す方法、幅広い学習集団への対処方法など、悩みの共有などを行うことができた。
- 少人数で検討できたので、顔見知りとなることができた。



研究協議風景



総合教育センターでは、「授業がもっとよくなる3観点」を踏まえて学校での授業改善を図り、児童・生徒の学力向上に資するため、「信州“Basic”～授業づくりのポイント～」を作成しました。「しのめ」では、5月号、7月号、9月号、11月号の4回にわたって、「信州“Basic”」の内容や活用例についてご紹介いたします。今回は、「学習環境編」についてご紹介します。書かれている内容は、以下の通りです。

**学習環境編**

?

- I 「教育は人なり」ってどういうこと？
- II どの子ども落ち着いて学習できる教室環境づくりとは？
- III 学び合える雰囲気のある学級づくりって難しい…
- IV-1 家庭学習を習慣付けるにはどうしたらいいんだろう…
- 2 宿題を出してはいるけれど…

授業づくりの基本について考えるとき、まず、子どもたちにどのような学習環境を提供していかなければならないか、ということが大切だと思います。ここでは、「学習環境」を広い意味でとらえ、上記のような内容で、よりよい学習環境づくりについて考えるきっかけを示しています。

Iでは、人的環境の一つとして「教育は人なり」を取り上げました。



**【豊かな感性】**

私たちは、個性豊かな子どもたち、多くの保護者や地域の方々日々接しています。相手の言葉や態度、表情から何を感じ取るか。ここが勝負です！

**【確かな専門性】**

「教師」である以上、子どもたちに間違ったことを教えるわけにはいきません。だからこそ、私たちは「学びの専門家」であり続けなければなりません。

**【品位】**

私たちは「先生」と呼ばれます。「先生」は敬称です。自分が敬称で呼ばれることに値する人間であるかを自ら問い、自分の姿を見つめてみましょう。

私たちがよく耳にするこの言葉について、もう一度考えてみてはいかがでしょうか。

このページをきっかけに、教師の原点を見つめ直してみましよう。

IIでは、いわゆる「教室環境」について取り上げています。「どの子ども落ち着いて学習できる教室環境づくり」について考える際のキーワードを「安全」「安心」「快適」とし、具体的なチェックのポイントを示しました。

## ＜特集＞「信州“Basic”」

### どの子ども落ち着いて学習できる 教室環境づくりとは？

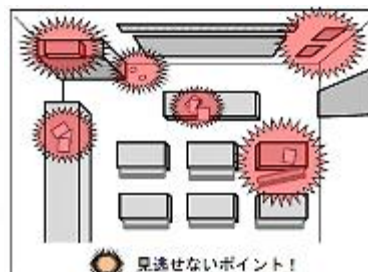
放課後の教室を見とけましょう。子どもが帰った後の教室に、子どものぬくもりが残っています。子どもの成長の様子や心の状況も見えてきます。

「あれ？昨日より連絡黒板がきれいに仕上がっている…当番の仕事の大切さをみんなに伝えよう。」  
「最近、ロッカーが片付いていないな…何かあったのかな？気をつけて見ていこう…」 など

このように、放課後の教室は、子どもからのサインがあふれています。これを次の日の指導につなげていきましょう。

ではここで、「安全」「安心」「快適」の三つから、自分の教室環境を点検してみましょう！

このページの内容をもとに、学年会等で、互いの教室を見合い、学び合う研修も有効だと思います。



Ⅲでは、人的環境の二つ目として、授業を通して子ども同士の「学び合える雰囲気」をつくっていくポイントについて考えてみました。私たちが先輩の先生方に教えていただいた「教室は間違えるところだよ」という言葉について、これを機にもう一度考えてみてはいかがでしょうか。

### 学び合える雰囲気 学級づくりって難しい…

学校のよさは、「共に学ぶ仲間がいる」ことです。そのよさが十分発揮されるためには、よりよい学級づくりをすることが大切です。学級づくりには様々なポイントがありますが、ここでは、授業にかかわるポイントを考えてみましょう。

まず、質問です！

授業中にあなたは、下の二人の先生の問いかけのどちらをたくさん使っていますか？

A先生	B先生
この問題、分かった人？	分からなくて困ったという人？
分かったこと（できたこと）を発表してください。	分からないことや困ったことを発表してください。

Ⅳでは、「家庭学習」について考えてみましょう。家庭学習の充実と学力の向上の関連性は、常日頃から感じておられることと思います。

家庭学習の習慣付けには、学年によって内容は異なりますが、家庭の協力抜きでは難しいと思います。ここでは、学校から各家庭に発信していく内容について考えるきっかけを示しています。

また、普段出している宿題を見直すポイントについても示しました。

### 家庭学習を習慣付けるには どうしたらいいんだろう…



「信州“Basic”～授業づくりのポイント～

は、当センターHPの「教育情報事業」にPDF形式でアップされています。必要に応じて閲覧、印刷等して、積極的にご利用ください。